

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 里山林整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林活用推進課 森林活用係 電話番号：058-272-1111(内4344)

E-mail：c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 150,000 千円 (前年度予算額： 150,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	150,000	0	0	0	0	0	150,000	0	0
要求額	150,000	0	0	0	0	0	150,000	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 平成24年度から、林業活動では採算が合わないため放置されてきた里山林などを整備・活用・保全する目的で清流の国ぎふ森林・環境税を導入。
- 野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や、生物多様性の保全を図るため、市町村等が実施する管理・整備に要する経費を助成。
- 近年、住宅等に倒れる恐れのある危険木の除去や、野生鳥獣による被害の軽減のための森林整備のニーズが増加。

(2) 事業内容

【補助対象事業及び補助上限単価】

- 危険木の除去タイプ(森林地域外を除く。)
補助上限単価：必要経費積上げ額以内の額
(共通仮設費、間接費は国が定める率以内とする。)
- 森林地域外危険木の除去タイプ
補助上限単価：1,000千円/箇所(補助率2/3)
(共通仮設費、間接費は国が定める率以内とする。)
- バッファゾーン(緩衝帯)の整備タイプ
補助上限単価：700千円/ha

【補助対象者】

市町村、森林組合等(森林地域外危険木の除去は市町村のみ)

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ森林・環境基金対象事業

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	94	業務旅費
需用費	208	コピー代等
役務費	18	電話代、郵便代等
補助金	149,680	里山林整備事業補助金
合計	150,000	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(3) 農林畜水産業の活性化 - ③「未来を支える森林づくり」の推進

・第4期岐阜県森林づくり基本計画

第6章 1 森林づくりの推進

(1) 災害に強い循環型の森林づくり

(ア) 激甚化する災害に備えた山地防災力の維持・強化 - (b) 森林の適正な管理

(2) 国・他県の状況

・平成15年度に高知県で導入されて以来、現在37府県で導入している。

・令和元年度より、国の森林環境譲与税が導入された。

(3) 後年度の財政負担

課税期間である令和8年度まで税収に応じ事業を実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村、森林組合等が実施する里山林に対する管理・整備に要する経費を支援する制度。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	里山林整備事業補助金
補助事業者（団体）	市町村、森林組合、生産森林組合、森林組合連合会、森林整備法人、林業事業体、特定非営利活動法人など (理由) 広域的に森林整備等を実施するため
補助事業の概要	(目的) 森林所有者等による持続的な森林経営が困難な森林を整備することで、野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全等を図る。 (内容) 市町村森林整備計画の森林配置計画で「生活保全林」に指定された森林における、住宅等に倒れる恐れのある危険木の除去や、野生鳥獣による被害の軽減のための森林整備等を支援。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) 補助対象経費の10/10以内の額。（森林地域外危険木の除去タイプは3分の2以内の額） (理由) 里山林の公益的機能の維持増進を図るためには不可欠な事業であるため
補助効果	事業実施箇所周辺の住民等にアンケート調査を行った結果、高い満足度が得られている。
終期の設定	終期 令和8年度 (理由) 清流の国ぎふ森林・環境基金事業のため

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか 令和4年度から令和8年度まで、年度あたり70箇所の危険木の除去及び40箇所のバッファゾーンの整備を支援する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H24)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R4～R8 累計)	達成率
①危険木の除去実施箇所数	0箇所	73箇所	70箇所	70箇所	350箇所	—
②バッファゾーン整備実施箇所数	0箇所	44箇所	40箇所	40箇所	200箇所	—

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	271,127	251,420	176,472

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	実施市町村数：27 整備面積：309.68ha 施設整備：1箇所 既存施設の改修：6箇所 森林地域外危険木の除去：3箇所
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	実施市町村数：24 整備面積：301.20ha 既存施設の改修：3箇所 森林地域外危険木の除去：5箇所
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	実施市町村数：21 危険木の除去：73箇所 森林地域外危険木の除去：3箇所 バッファーズーンの整備：44箇所
	指標① 目標： <u>70箇所</u> 実績： <u>73箇所</u> 達成率： <u>104</u> %
	指標② 目標：40箇所 実績：44箇所 達成率： <u>110</u> %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	危険木の除去、バッファーズーンの整備の両メニューとも主に山村地域からの要望が多く、県民のニーズが高い事業である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	地域住民の要望に対応した森林整備を進めることができおり、期待通りの成果が得られている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	危険木の除去について、実状に応じた補助金額とするため、歩掛調査を実施のうえ諸経費率に上限を設けたことで、整備箇所数の増加に寄与している。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 特になし</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 高い県民ニーズや第三者機関の提言等を踏まえ、補助要件の改正等が必要な場合は対応を行う。</p>
